

令和2(2020)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)  
 実績報告書(プログラム実施報告書)  
 (研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)  
 (ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)」

課題番号： 20HT0016

プログラム名：

山形で、がんゲノム時代のがん診療と研究に触れよう～実際の患者さんの目線で～



所属 研究 機関	名称	山形大学
	機関の長 職・氏名	学長 玉手英利
実施 代表者	部局	医学部
	職	助教
	氏名	鈴木修平

開催日	2020年12月19日
実施場所	山形大学飯田キャンパス
受講対象者	高校生 (※コロナ禍のため、抽選に際し明記のうえで県内在住者を優先して抽選しました)
参加者数	6名
交付申請書に記載した募集人数	6名(新型コロナウイルスへの感染対策が必要になったため、減員しました)

プログラムの目的

基礎生物実験の現場で実際に手を動かして体験してもらい、がん患者さんの意思決定についてグループワークで一人一人が患者さんや医師になったつもりで考え、さらに抗癌剤治療を行っている患者さんとの談話を行う。それにより、がん研究と臨床現場がシームレスであることを体感してもらうことで、科研費で行われる基礎研究が実際の医療現場を支えていることが伝わると考えられる。またそれだけではなく、今年度の新しい取り組みとして、がんゲノム医療元年であることより、がんゲノム医療拠点病院である当院の強みを生かしてエキスパートパネルを体験し、科研費によるがん分子生物学研究が患者さんへ役立つシームレスな流れをダイレクトに体感してもらいつつ、実際にがんゲノム医療を受けた患者さんとの談話を通じて、利点・欠点に触れて、あくまで患者本位であることを忘れないように受講者の胸に刻み込めるようにする。

プログラムの実施の概要

新型コロナウイルスの対応が必要であり、患者さんにも協力いただく企画であることや医学部キャンパス開催であることなど、企画修正・開催にも困難を極めた中での開催でした。

大変ななかにも関わらず、コロナ禍で多くの経験が奪われた子供たちへの科学・医学への exposure という社会的必要性も勘案いただき、困難のなか、開催許可を下さいました上層部の先生方へ心より感謝申し上げます。具体的な対策としては、下記のようなものを行いました。

①基礎実験のパートを、防護下で行う薬剤曝露・調剤のパートに変更 ②開催場所を附属病院+医局棟から交流会館へ変更 ③募集人員を減員 ④7月→12月に開催を変更 ⑤昨年までは全国から参加があったが、県内優先と明記し抽選の際に県内生徒を優先して抽選 ⑥一部 Zoom を使用 ⑦感染対策の徹底 ⑧クッキータイム・若手スタッフとの昼食を研究支援課を介して相談や質問に応じる形に変更

振り返ると、良い点と悪い点があり、①は化学療法認定看護師の配置を得て無事成功したものの、次回も配置できるかは不明であること、②は臨場感では劣るものの、前日から物品を置いておくことができたり、生徒がリラックスできたり、悪いことばかりではなかったこと、③は多くの抽選漏れ生徒に残念な思いをさせたこと、④は逆にコロナ蔓延期の開催となって裏目に出たこと、⑤⑧は他に良い案がみつからず、⑥はマイクテストをもう少し行う必要があったこと、⑦の消毒液等の予算計上が可能であったこと（弾力的な使用ができたため、とても助かりました。ありがとうございました。学術振興会さまに心より御礼申し上げます。）など、多くの収穫と反省点、生徒さんに申し訳なかった点がありました。広報活動についても、コロナ禍であり、イベントの開催ということ自体がためられる状況でもあり、緊急事態宣言などは出ていない時期ではあるものの、クラスターの発生や感染者の接触などが起きた場合、大きな問題となりうるため、県内高校へのチラシ送付にとどめ、プレスリリースも学内新聞と文教速報にとどめており、来年以降も社会情勢に応じた縮小した形とせざるを得ない可能性があると感じました。今後の発展としては、そもそもコロナ禍で科学系体験イベント企画の開催が難しくなっている点と、主催関係者の精神的負担の大きさという点が心配と感じました。私も開催にあたり、精神的な辛さは想像よりも遥かに辛いものでした。もしも感染者の来訪があり、濃厚接触者やクラスターが発生したら？という懸念で頭がいっぱいでした。来年度の企画としては、コロナ禍前提での企画としており、コロナ禍だからこそ、医療現場で医学・科学のなかでどのように考えていくべきか？ という、プログラムで提案しておりますが、そもそも開催可能なのか？ Zoom 振り替えにすべきか？ 患者さんは来られるのかどうか？ 等、やはり不安要素は残っているというのが正直な感想です。





患者さんとの談話（Zoomを使用）



質疑（がんゲノム）



がんゲノム医療エキスパートパネル



討議



曝露防止と調剤



閉鎖式回路の実習



未来博士号授与



お疲れ様でした！

また、かなり細かい点ですが、今回は保護者の同伴ができない形での開催となりましたため、送迎などに例年より気をつかう必要がありましたが、交流会館開催としたため、研究支援課スタッフの除雪の尽力はあったものの、終了時間やや前から保護者が車で待機するスペースが確保できたことなど、良かった点もありました。